

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」の 編集にあたって

古川 雅子^{1,a)}

1. 第7巻第2号の刊行にあたって

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」(IPSJ Transactions on Computers and Education, TCE)は2014年度に創刊し、今回の第7巻第2号で通算20号目の刊行となります。こうして節目となる本号を刊行できましたのも、ご投稿いただいた皆様と、丁寧な査読者の皆様ほか、関係者の皆様方のお力によるものと、深く感謝しております。

本論文誌は、コンピュータと教育研究会(Computers in Education, CE)と教育学習支援情報システム研究会(Collaboration and Learning Environment, CLE)を母体とし、情報教育から教育を支援する学習支援システムまで「教育」と「コンピュータ」に関わる幅広いテーマを扱っています。

本論文誌の特徴としては、読者にとって有益な教育とコンピュータに関する価値ある知見を積極的に紹介いただくために、条件付き採録の照会回数に制限を設けていない点や、教育現場における実践事例を紹介いただくために「実践論文」や「ショートペーパー」といったカテゴリーが用意されている点があげられます。

また、本論文誌は、「実践論文」や「ショートペーパー」といったカテゴリーを用意することで、多様な教育実践の知見が集まるように工夫している点に特徴があります。さらに、読者にとって有益な情報や価値ある知見を積極的に紹介するために、条件付き採録の照会回数に制限を設けず、可能な限り研究成果を拾い上げるという点にも特徴があります。

2019年に世界中に感染が広まった新型コロナウイルス(COVID-19)の感染防止策の1つとして、教育現場においてLMSをはじめ多くのオンライン授業ツールが使われるようになりました。この状況下で情報倫理教育がよりいっそう重要になるとともに、あらゆるログを活用して学習支援を行うラーニングアナリティクスについても注目が高まってきています。教育現場において様々な取り組みが試

行されており、その情報共有が求められている今日、ぜひ皆様の貴重な研究結果・実践結果を論文文化して公開いただきたく、今後とも積極的なご投稿、ご査読へのご協力をお願い申し上げます。

2. 本号掲載論文の紹介

本号では、招待論文1編を含む2編の記事を掲載しています。

- 「情報倫理ビデオ教材の開発—これからの情報教育のために」では、2002年から開始された国内における情報倫理ビデオの開発の経緯とその後の変遷について紹介し、これからの情報教育がどうあるべきかについて考察しています。
- 「Twitter等の商業サービス上の学習活動履歴をLMSへ統合しLRSへ抽出するためのシステム「M-Pla」の構築」では、LMSの学習履歴データだけでなく、TwitterやEvernote、LINE等で行われた学習活動履歴をLRS(Learning Record Store)へ抽出する手法を提案し、開発したシステムについて詳述しています。

¹ 国立情報学研究所
National Institute of Informatics, Chiyoda, Tokyo 101-8430,
Japan

a) furukawa@nii.ac.jp